

# 地域懇談会（県央等）の概要について

## 1. 開催日時等

日 時：平成17年11月18日（金）13：30～15：30

場 所：ウェルシティ熊本「飛翔の間」

## 2. 出席者

関係市町村の長及び議長：

熊本市、宇土市、城南町、富合町、植木町、大津町、菊陽町、御船町、嘉島町、益城町、甲佐町、苓北町の長及び議長

（計22名出席。ただし、熊本市は企画財政部長、植木町は助役、城南町議会は副議長の出席）

委 員：中川会長、大丸委員、葦原委員、田中委員、村越委員、中村（義）委員、萩嶺委員（計7名出席）

事務局：川口市町村総室長 他

## 3. 主な意見等

- ・ 政令市の実現に向けて、当事者として環境醸成、機運醸成に努めていきたい。
- ・ 熊本都市圏の中で政令市ができるということが望ましいということについては、審議会の中でも意見として答申の中に入れていただきたい。
- ・ 国の新支援プランの対象となるためには構想に位置付けられる必要がある。ので、枠組みについては、かなり慎重に構想をつくっていただかなければならないと思う。状況の変化に応じて、速やかな構想の変更なども弾力的に対応いただきたい。
- ・ 私達は、合併したくてもできなかったところ。合併がいかに難しいかを身をもって感じている。合併協議を始めて、それがうまくいかなかったとき、市町村間に感情的なしこりが残る。一旦県が枠組みを示し、それに沿って努力しているときには、県は先頭に立ってまとめる努力をして欲しい。
- ・ どの程度の人口規模まで合併したら、合併効果が出ると県は考えているのか、合併審議会委員の皆さんがどう考えているのかが大事。合併効果を求めるのならば、少なくともこのくらいの人口規模が必要ということを示した方が良い。
- ・ 平成の大合併は、大なり小なり県の示した枠で一生懸命やってきた。合併が駄目になってまだ半年もたっていないうちに、次の合併はどうですかといわれても、発言できない。
- ・ 熊本市の政令市移行について、県としての明確な考えを持っているのかがどうか、熊本市に近接する市町村には大事と感じている。
- ・ 今回の会議の趣旨が解らないということで議会は欠席。
- ・ 人口2万程度の農業中心の町で、これからどうやっていけるのか心配しなければならないが、現状維持で10数年は大丈夫という自負はある。
- ・ 合併に関して1／50の住民発議での制度があるが、過去の4、5回の住民発議の間中、首長・議会は混乱の中にあった。

- ・ 合併が一段落するかと思っていれば合併新法ができた。合併したいところに手を挙げてもらい、その話を県が周囲に結びつけるよう推進してもらいたい。勧告的にどうというような決定はして欲しくない。
- ・ 10年、20年先を考えて、熊本県の県都としての熊本市が政令市になることが地域の安定につながると考え、熊本市と合同研究会をして、町で説明会を行っている。
- ・ 財政的にも小さな町であるので、熊本市との法定協議会の設置を考えている。
- ・ 予想以上に財政状況は厳しいが、単独でのまちづくりを目指していくためにはそれなりの痛みを伴いながら努力していかなければならないと思っている。
- ・ より良い住民へのサービスをいかに効率的にやっていくかということが大事で、そのためには行政改革に取り組んでいく。
- ・ 合併をしなければならない行政的な問題もあるが、今、住民を主体として隣の町から一緒になっても良いといわれるような町づくりに努めている。
- ・ 県の方針が見えてこないという意見もあるが、県がビジョンを描き、情報を公開してもらうことも一つの合併推進の道になると考える。
- ・ 県の枠組みで一番ベターな方法として、10万人規模の合併を目指したが、まとまらなかった。しかし、これまでの取組みは無駄ではなかったし、住民も勉強する機会になった。
- ・ 今後、またすぐに5年間で合併をやるということでは、時間がなさ過ぎる。反省の時期が必要であり、住民の意識がやっぱり合併した方がよいというように変わらないとなかなか難しい。
- ・ 合併については、単独という結論が出たので、今のところ全然頭の中に入らない。いつかそういうことが来るに違いないという期待はもっている。
- ・ これまでの合併の経緯からいろいろ言われたい立場である。
- ・ 今後、合併については、時間をおいて合併しなければならないと確信している。いま、当町の立場としては、当分単独で行きたいと思っている。
- ・ それぞれの地域で合併に対する考え方が大きく変わって来ている。少子高齢化が進んでいくという話があるが、当町においては一度人口が落ちてそこから増えてきている。一概に1万人以下の市町村で人口がどんどん減る、高齢化が進んでいくとは言えない。
- ・ 地方分権が進んだときに受け皿として適正な人口規模について話があるが、専門職をつくるということであるなら、1つの担当に最低1人以上つくのが適正な合併ではないかと考えている。
- ・ 住民投票の結果から、住民の意識を尊重しなければならないので合併しないとの考えを持っている。隣接自治体との話もあったが、町議会で否決になっている。
- ・ 中長期の財政見通しでは、26年までは当分は大丈夫であると数字的な裏付けもあり、今のところ合併はしない考えである。

- ・ 財政的な状況で、いつでも今の住民生活のグレードより高くなるなら合併することはやぶさかでないと言っている。
- ・ 隣接町との合併を推進してきたが、住民投票の結果、合併反対が圧倒的に多かったため合併できなかった。そのため、当面は単独でいかなければいけないということで、それに向かった行財政改革を進めているところである。
- ・ 町民にもその選択について理解していただき、執行部、議会も不退転の決意で頑張っている。当分の間は自立の道を模索している中であり、合併新法ができたからどうですかというのは如何なものかと思う。
- ・ 合併を成功させるためには徹底した改革が必要。合併をするならば、こういう条件をキチッとやったならこういう効果が見込まれるということについて明確な説明が必要である。
- ・ 地方分権の推進はずっと叫び続けてきて実現しなかったことだが、今度の平成の大合併で、分権を進めていくということについては期待している。
- ・ 委員としっかり議論をしたいので、是非、当地に足を踏み入れていただき、もう少し委員の方々とじっくり合併やまちづくりについて話をさせていただきたい。